

来ました、愛媛県!



先日、伊豆に行く機会があったが、梅は勿論、河津桜もまだまだ三分咲き。

少し標高の高い、とは言え1,000Mに満たないところでもまだ残雪があった。帰りの伊豆スカイライン、箱根ターンバイクでも残雪を多く見ることが出来た。

地元の方々も「今年の梅は遅い」「寒い」と口を揃えておられた。さて、数字がキレイに揃った「二月二十二日」、めでたくも、そして華々しくセルドロンが愛媛県において

「平成29年度資源循環優良モデル認定 (S「eco」、通称リサイクル認定)」を受けた。

画期的なことであると思つづくと思う。申請して頂いたのは、松山市内在のビジネスパートナーである株式会社カネシロ。少しずつではあるが、着実にセルドロン事業が前に動き出していることを実感している。

既にご承知の通り、カネシロ様にはセルドロン製造機を設備投資して頂いているが、これを切掛けに着実に愛媛県内でセルドロンの価値が認められるようになることを確信している。

また、四国全域の販社兼ビジネスパートナーである東昇商事にセルドロン事業の発展を委ねている分のだが、ここから一気にギアアップ&加速してくれることであろう。よろしくお願ひします!

平成二十九年度資源循環優良モデル認定証交付式の模様は

http://www.pref.ehime.jp/h15700/4731/model/29_modelninte.html

で確認頂けます。

GNN・宮本さんから“elephant in the room”という表現を教わったが、英語の方がすとーんとハラオチするから面白い。
意味としては「見て見ぬふりをする」つまり、知っても巻き込まれたくないから知らないふりをする。

でも、本当にそうなんだろうか? 本当に見えてないのかも知れない、例えば「小銭は落ちるとチャリンと音がして気付くが、お札を落としても音はしないから気付かない」と言う表現のように。
宮本さんは365日で1,000本以上のブログをアップしているが、残コン、ネタは50%を超す。正直「よくも飽きずに同じフレーズを使えるね」と思うときもあるが、結局のところ継続は力なり、残コンが徐々に認知されつつあり、セルドロンがその解決策の一案として認知されつつある。タイミングよく関係各社からの協力を頂き申請済みのNETISも、近々朗報を届けられる。一歩手前までこぎ着けている。

愛媛県におけるリサイクル認定を起点に今後、各自自治体への横展開の攻勢をかけて行きたいと思っている。
ただ、我々ではいかにも資本、リソース、知恵、経験が小さ過ぎる。是非とも、皆様からの継続的なご協力をお願いしたいと考えている。

「まだ協力が必要かい?」との声が原稿書いているまでも耳に届いているが、我々単体ではこのセルドロン事業のポテンシャルを最大化することは非常にハードルが高いと感じている今日この頃である。さて、それでも前に進みましょう。

モルタル処理やセメントミルク処理にセルドロン



最近お問い合わせでセルドロンの利用が多いのは、「モルタル」への活用です。マンシヨンなどの構造物を作る際には、生コンを送り込むために、ポンプ圧送車で生コンを打設していきます。

ポンプの配管が、乾いた状態で生コンを通してしまうと、生コンの水分が配管内に付着して、流動性が低下し、閉塞してしまいます。

そのため、最初に配管を湿らす事を目的に、モルタルを通します。配管の先から出て来たモルタルは、処分する事になりますが、モルタルは液体状なので扱いづらいものです。

そのモルタルにセルドロンをサツと混ぜると、流動性がなくなり、一ヶ所にまとめて置くことや、マンシヨンの上階でも、すぐに土嚢袋に入れて持ち運び出来る状態になります。

また、モルタルは生コンプラントから出荷されるため最低出荷量の0.5㎡が必要となりますが、それに代わる材料として「モレステ」という生コンプラントから発生するスラッジを再利用したエコな先行材が発売されています。



モルタルとは？

セメントと砂を水でねったもの。生コンはセメント、砂、水、骨材となり、モルタルと生コンの違いは骨材が入っているかです。

似たような使い方としては、柱状改良工法で発生するセメントミルクの処理です。家を建てる時、家が傾かないように、地盤改良を行います。その地盤改良の一つに柱状改良があります。

柱状改良とは、その場で掘りながらセメントミルクを注入し支持層(安定した地盤)まで打ち込みます。これをしないと、プールの上に家が浮いている状態です。

そのため、セメントミルクをしつかりと注入し支持層から家につながる土台の柱となります。多少、表面にセメントミルクがあふれてしまいます。セメントミルクをそのままにしておくとは硬化してコンガラ(コンクリートガラ)になつてしまい、処分に困ります。

昔は、現場に埋めてしまったこともあったようですが、最近は持ち帰るように指示されているようです。固まる前に、少量のセルドロンを混ぜてあげること、パラパラな状態になり、扱いやすくなります。

地盤改良をされる方も、ぜひセルドロンをお試しください。



セルドロンFacebook始めました

日々セルドロン関係の情報発信しております。過去の事例やお得な情報など更新されておりますので、ぜひ「👍」を押してください。